

奏曾弓張力
前編
貳

芥子園

^ 13
3692
2



門 へ13
號 3692
卷 2

曲亭翁原稿 西馬老人綴

及 清 人

東京書房 文昇堂熊谷梓

三編 壹

仙經の如是我聞小説乃詰解わしくわとこととハ四国と廻る猿蟹の
吐く小残と何と御時今昔叔も其後去程は梅史丹談語の紋切形ふ
て劇場の身は時世く此未へどうの後の後わい形も趣向と見ぬ先ハ不知でり
根のりも樂屋取あつたは八入藝仕掛と見まる千品の種本音宮に習ふ
か當攝のあひと営業は書費がぬるぬ望僕等が二百三孔の漬込
茄子より嗜まると味ののち古澤庵乃功の者書やくと催促に筆は壺下机の
姐刻んで出に初編二編夜長の茶づけは口小合ひの習う好帯の三倍目
給仕の盆は弓張月横と雁の文字と妙で明方の口繪は半張まご覺
まごぬ寝言の演條其のあ自湯

嘉永三庚戌初夏稿成
全四歳辛亥孟春撰市

樂亭西馬題

長月三編

壹



り長月三編

比良山
楊梅溜變化

為義馬飼
谷市

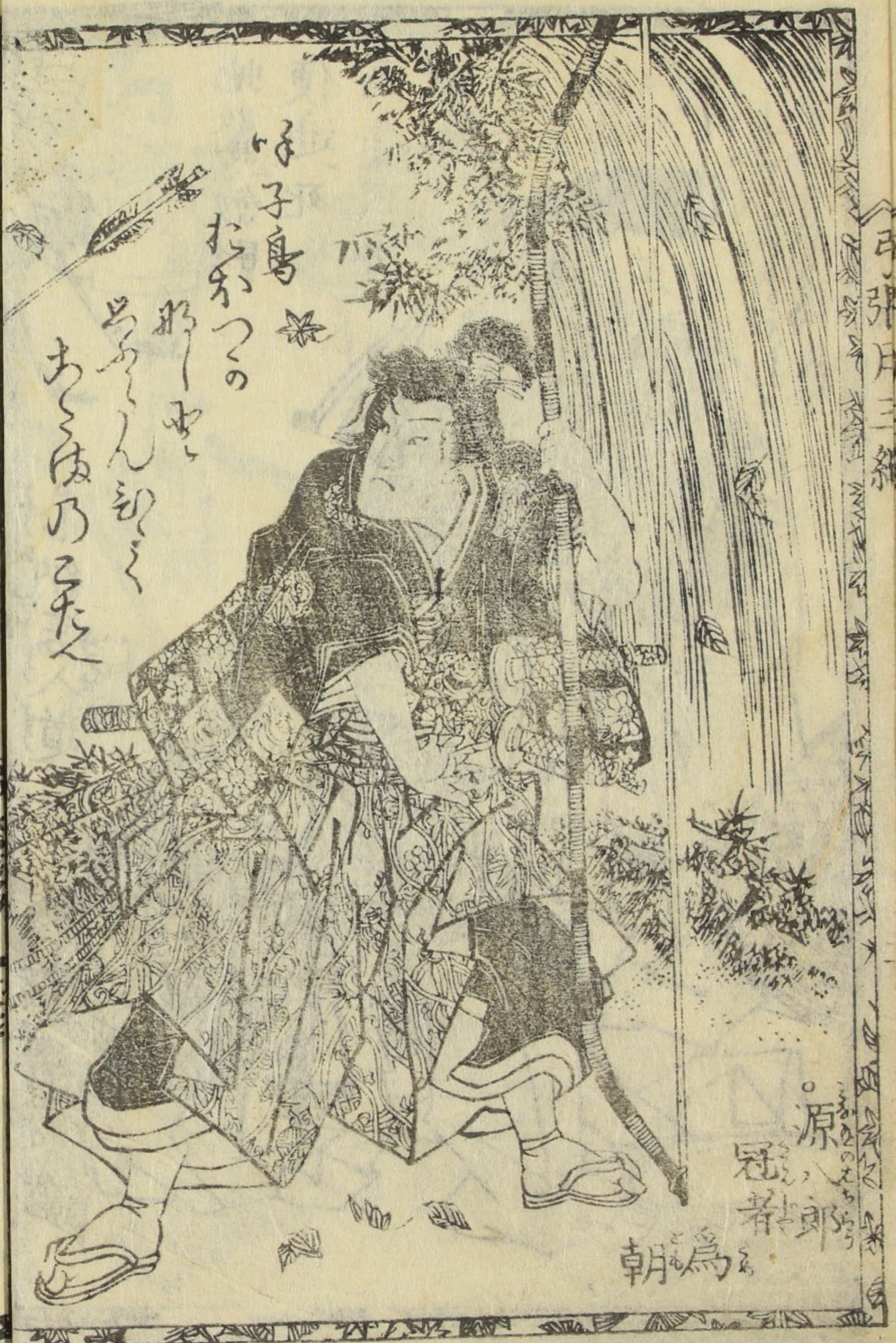
山宮



年三編

子身
おれつ
おれつ
あはれ乃乙女

原
冠者郎
朝為





白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋...

谷市



白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋...

白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋...

白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋...

八郎為朝

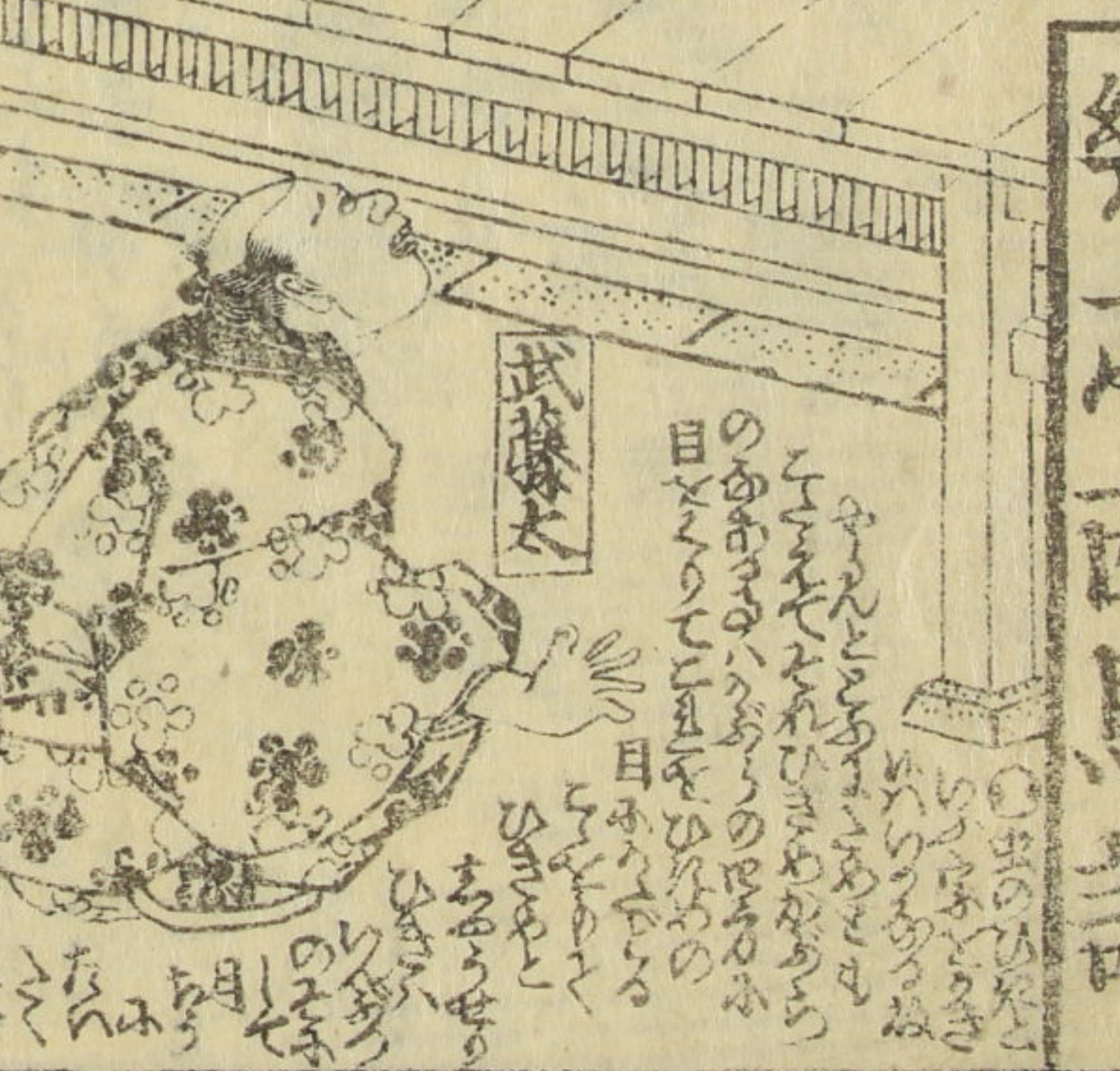
白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋...



白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋...

白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋... 白鳥のついでに... 長良の安幸の屋...

西馬西馬の産物... 武藤太



樂亭西馬評

一雄齋國輝画

西馬西馬の産物... 武藤太... 此の産物... 西馬西馬の産物...

故式亭先生... 東都の表...

此の許り... 信に及ぶ...

開小八丈の祠官... 許りの札と...

最三十五年乃... 源家古今の...

の當り... 五六七編と...

榮四方の霞乃... 嘉永四年辛...

樂亭西馬誌

嘉永四年辛...

樂亭西馬誌

嘉永四年辛...

樂亭西馬誌

嘉永四年辛...

樂亭西馬誌

嘉永四年辛...

樂亭西馬誌

嘉永四年辛...



御曹子
郎為朝



野の
三郎
長女

忠重
江

大島
郡司
三郎
大忠重

大島
郡司
三郎
大忠重



符野入

工藤

茂光

増宝

安結

白縫姫

平光



あまらの
耳よ

あまらの
おま

あまらの
あま

あまらの
あま

あまらの
あま

あまらの
あま

あまらの
あま

あまらの
あま

あまらの
あま

あまらの
あま

八町

紀平治
大夫

扇侍女

太藤武

悪徒

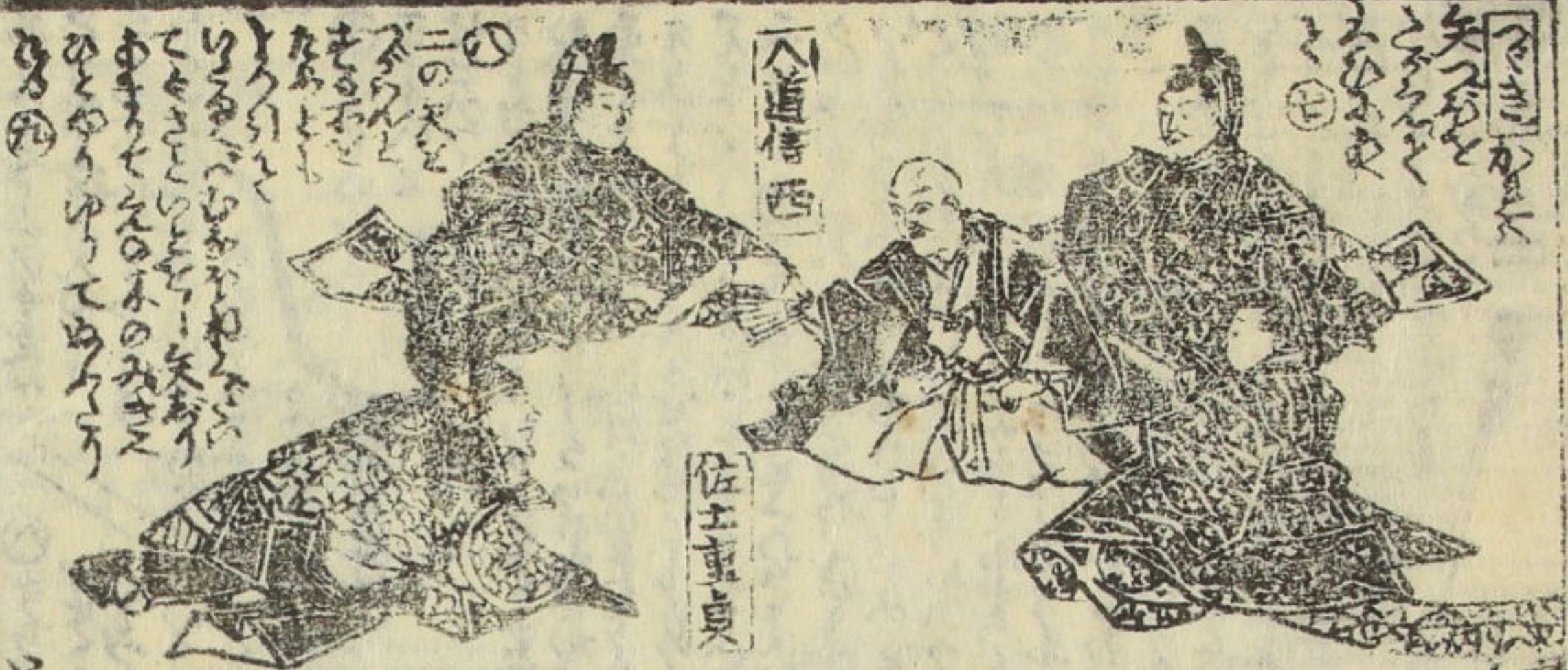
扇侍女

張月四糸

①市...の...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



...
 ...
 ...
 ...
 ...



②市...の...
 ...
 ...
 ...
 ...



③市...
 ...
 ...
 ...

世の人はみな...
あつた...
いかに...
さうした...
あつた...
いかに...
さうした...

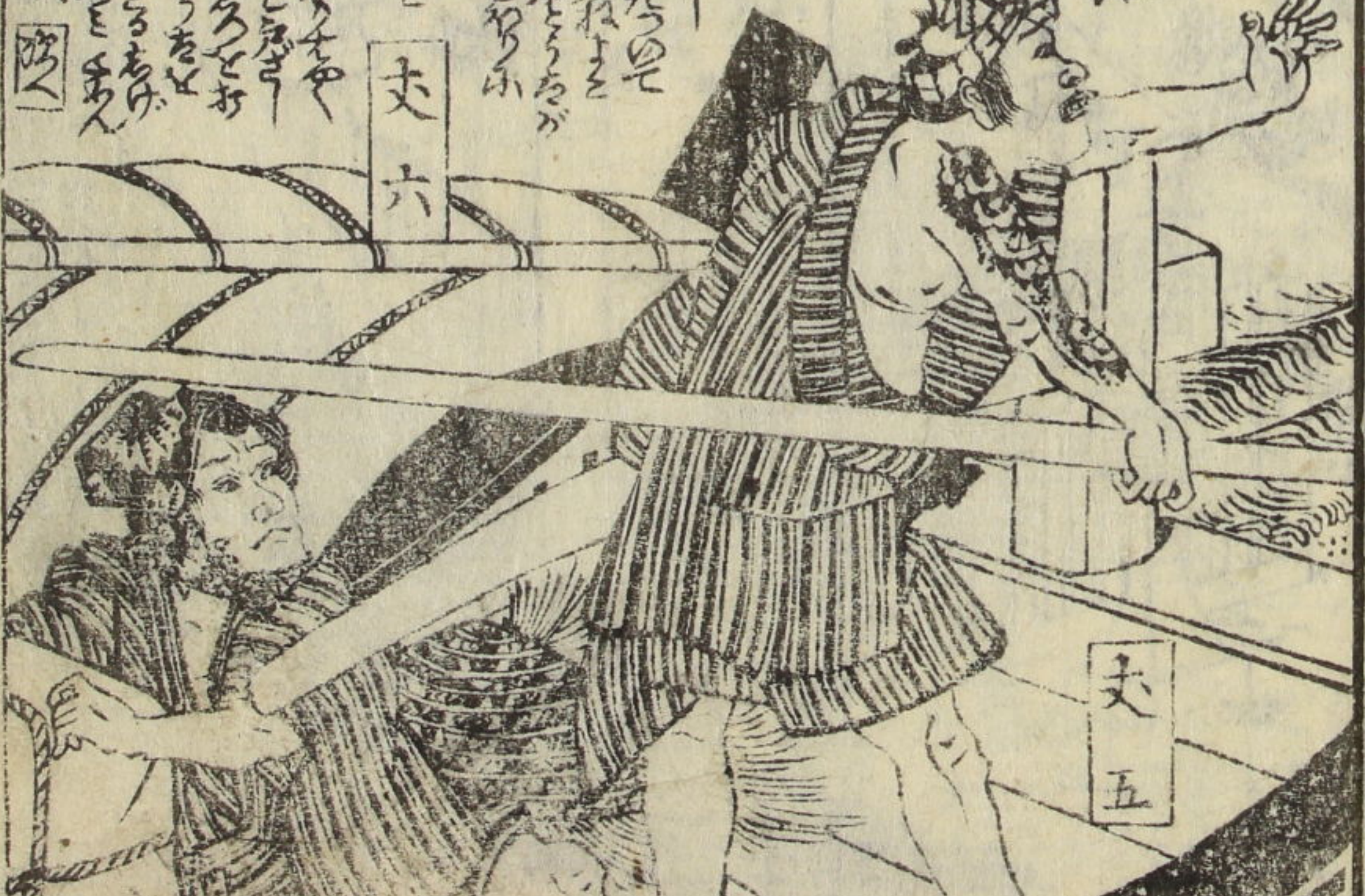


武藤大

あつた...
いかに...
さうした...

あつた...
いかに...
さうした...
あつた...
いかに...
さうした...

あつた...
いかに...
さうした...
あつた...
いかに...
さうした...



あつた...
いかに...
さうした...



百の人の
わらわんと
こころを
おぼえし
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて

おんあふみのまじり
あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて

武藤太

あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて

あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて



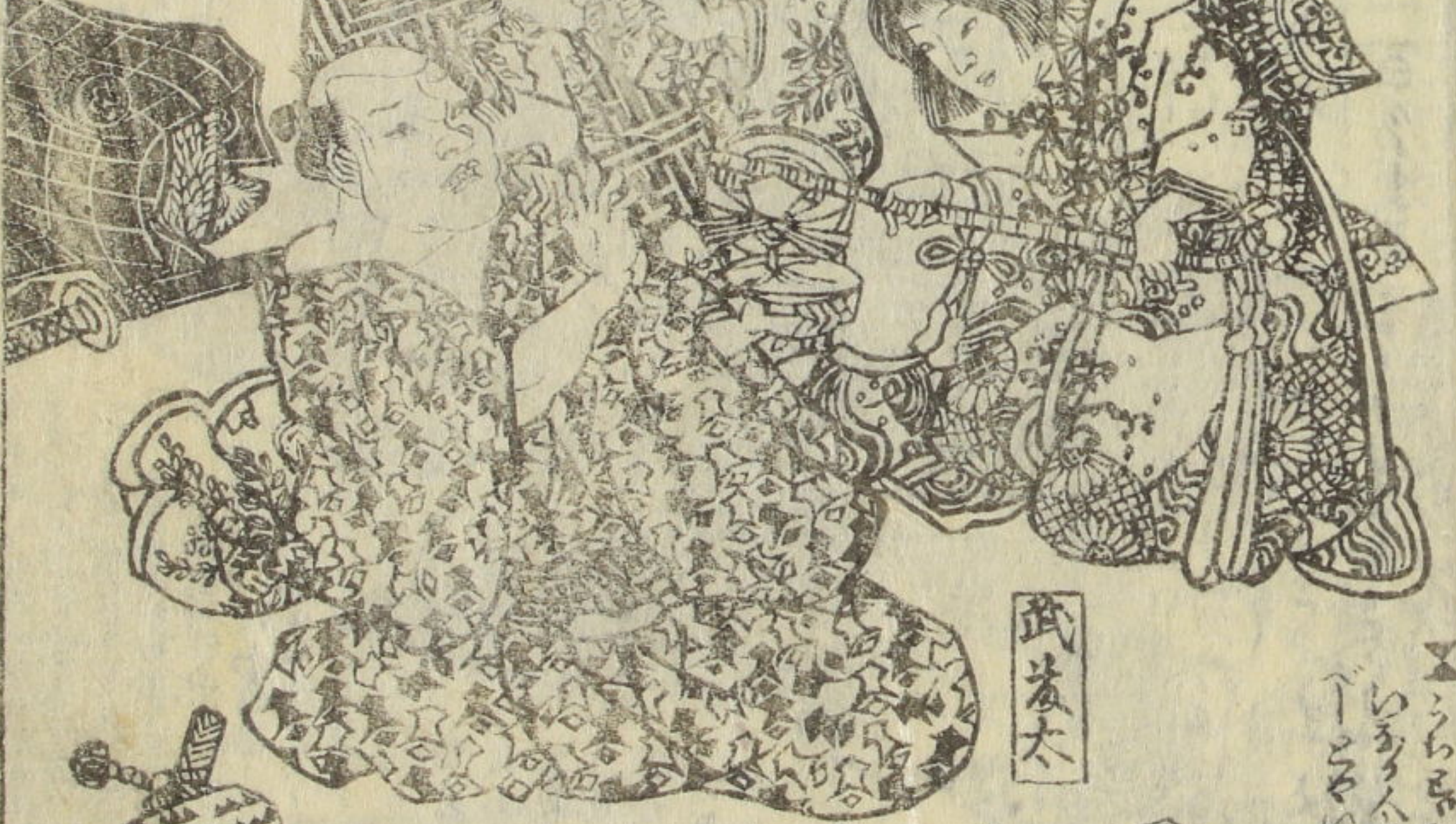
白縫姫

あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて

あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて
ちりてぬらしたるは
おんあふみのまじり
あつて



Three columns of vertical Japanese text on the upper left side of the page.

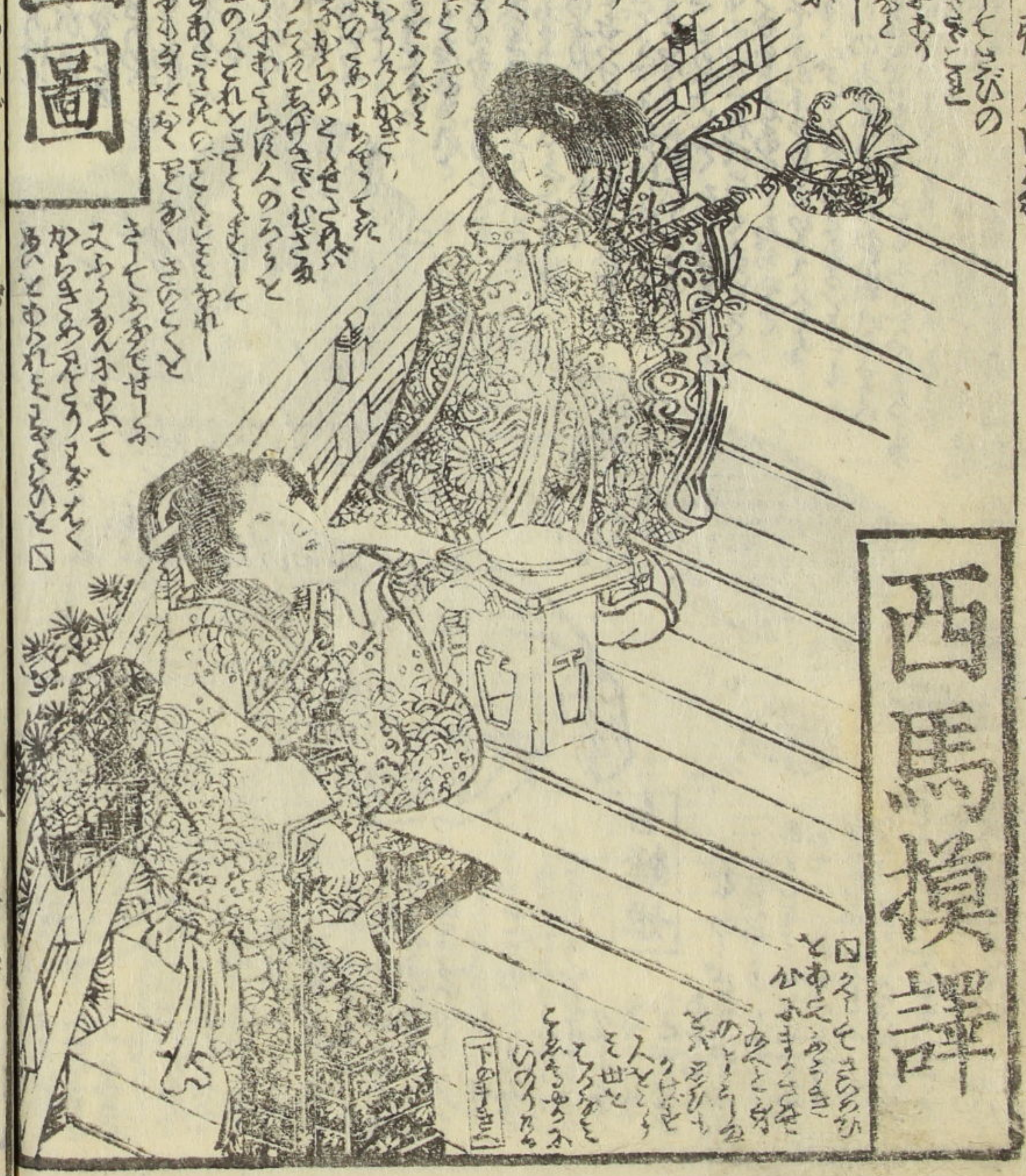


武芸大 (Great Martial Arts)

Two columns of vertical Japanese text at the bottom of the left page, including the date '弓張月四編'.

國輝画圖 (National Illustrations)

Two columns of vertical Japanese text on the upper right side, providing context for the illustrations.



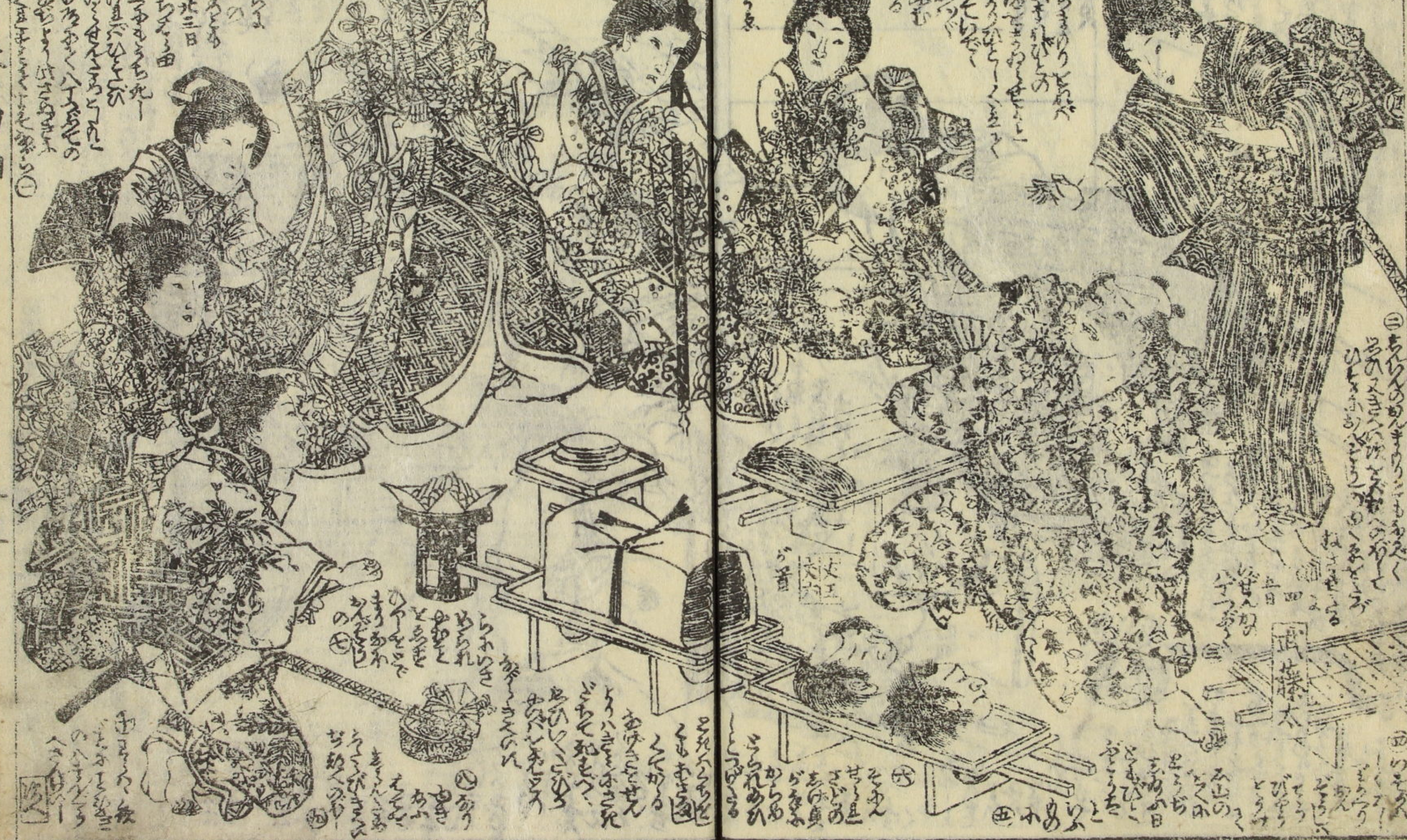
西馬模譯 (Illustration of a woman from the West)

Small vertical text at the bottom of the right page.

ふきいふとてきひきり
あれといふとてきひきり
いふとふとてきひきり
ふきいふとてきひきり
あれといふとてきひきり
いふとふとてきひきり

ふきいふとてきひきり
あれといふとてきひきり
いふとふとてきひきり
ふきいふとてきひきり
あれといふとてきひきり
いふとふとてきひきり

ふきいふとてきひきり
あれといふとてきひきり
いふとふとてきひきり
ふきいふとてきひきり
あれといふとてきひきり
いふとふとてきひきり



つきのてあゆして只そのあつらひりやとせられ
 とくらのてりてうらやまのてりやうとせられ
 やいひまはてりてうらやまのてりやうとせられ
 のさてりてうらやまのてりやうとせられ
 れるやうとせられ
 九月十八日のついでに
 あつらひりやとせられ
 られどあつらひりやとせられ
 てあつらひりやとせられ
 さすやうとせられ
 ちりてあつらひりやとせられ
 ひそくあつらひりやとせられ
 びそくあつらひりやとせられ
 あつらひりやとせられ
 とせられ
 さすやうとせられ
 ちりてあつらひりやとせられ
 ひそくあつらひりやとせられ
 びそくあつらひりやとせられ
 あつらひりやとせられ
 とせられ



白縫侍女



紀平次

△おれ
 かれりやうとせられ
 てりてうらやまのてりやうとせられ
 のさてりてうらやまのてりやうとせられ
 れるやうとせられ
 九月十八日のついでに
 あつらひりやとせられ
 られどあつらひりやとせられ
 てあつらひりやとせられ
 さすやうとせられ
 ちりてあつらひりやとせられ
 ひそくあつらひりやとせられ
 びそくあつらひりやとせられ
 あつらひりやとせられ
 とせられ

りやとせられ
 かく
 あつらひりやとせられ
 こころ
 のさ
 うら
 まは
 ちり
 てう
 らや
 まの
 てり
 やう
 とせ
 られ
 のさ
 てり
 てう
 らや
 まの
 てり
 やう
 とせ
 られ
 れる
 やう
 とせ
 られ
 九月十八日のついでに
 あつらひりやとせられ
 られどあつらひりやとせられ
 てあつらひりやとせられ
 さすやうとせられ
 ちりてあつらひりやとせられ
 ひそくあつらひりやとせられ
 びそくあつらひりやとせられ
 あつらひりやとせられ
 とせられ

白糸姫



八雲光姫宿

△おれ
 かれりやうとせられ
 てりてうらやまのてりやうとせられ
 のさてりてうらやまのてりやうとせられ
 れるやうとせられ
 九月十八日のついでに
 あつらひりやとせられ
 られどあつらひりやとせられ
 てあつらひりやとせられ
 さすやうとせられ
 ちりてあつらひりやとせられ
 ひそくあつらひりやとせられ
 びそくあつらひりやとせられ
 あつらひりやとせられ
 とせられ

一雄齋國輝画
 此の畫は、國輝の筆によるもので、
 人物の描寫は、力強く、
 色彩は、鮮やかである。



一雄齋國輝画

此の畫は、國輝の筆によるもので、
 人物の描寫は、力強く、
 色彩は、鮮やかである。

樂亭西馬模譯

此の畫は、樂亭の筆によるもので、
 西馬の模譯である。



